

病害虫発生予察情報

向こう1ヶ月（9月）の予報

平成 21 年度 予報第 5 号

東京都病害虫防除所

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1

Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

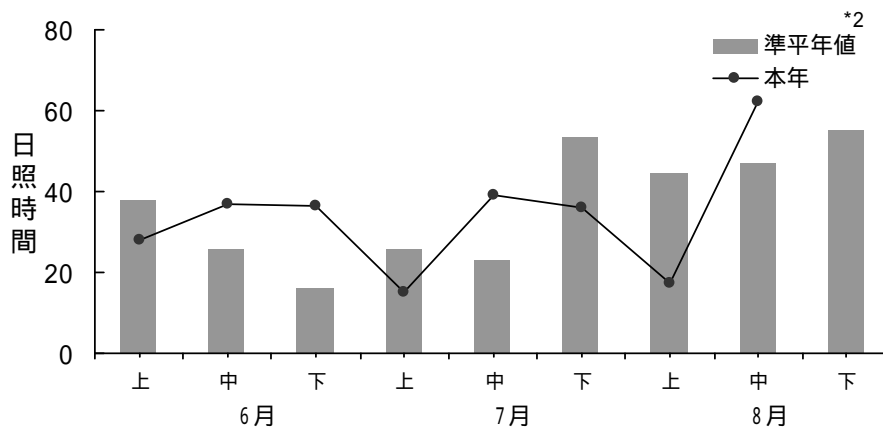
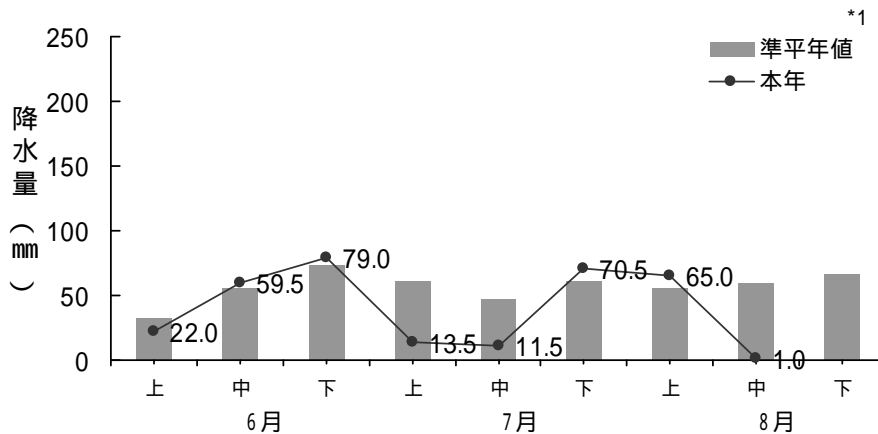
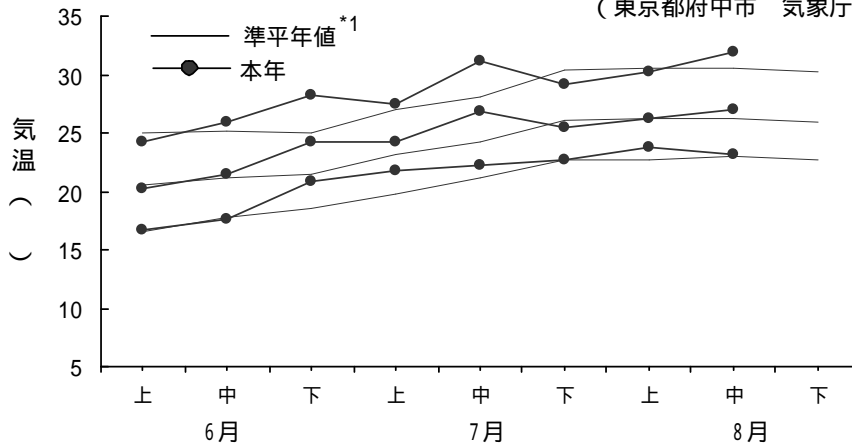
e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】平成 21 年 8 月 21 日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の1か月予報より

確率	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	40	40	20
	降水量	40	40	20
	日照時間	20	40	40

【気温・降水量・日照時間の経過】 準平年値と本年の8月中旬までのデータを示した。

(東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1 : 1979-2000 の平均値，*2 : 1987-2000 の平均値

近年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、2002年12月に農薬取締法が改正され、2003年3月10日からこの改正法が施行されました。主な改正点は、

無登録農薬の製造、輸入、使用の禁止（販売は従来から禁止）

農薬使用指針に違反する農薬使用の禁止

罰則の強化など

であり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農薬は農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページ（<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>）の「農薬コナ」をご覧ください。

改正農薬取締法の施行により、農薬登録の適用作物名「はなやさい」は、カリフラワ－の別称で、ブロッコリーを含まないと定義されました。「ブロッコリー」および「カリフラワ－」では使用できる農薬が異なりますので注意をお願いします。

ディブテレックス乳剤はブロッコリーでは使用できません。

【病虫害発生予報】（各根拠に記した()内記号は発生助長要因の強度を示す）

イネの病虫害

1. いもち病（穂いもち）

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、葉いもちの発生は平野部でやや多く、山間部で多い。(+)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 水田をよく観察し、現在、葉いもちの発生が認められる場合は、今後の天候に留意し薬剤を散布する。
- 2) 山間部では、8月に葉いもちが多発しているため、注意する。

2. 紋枯病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

3. 斑点米カメムシ（主にクモヘリカメムシ、他、ホソハリカメムシおよびイネホソミドリカスミカメ（旧称：アカヒゲホソミドリカスミカメ））

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 水田周辺の雑草地におけるすくい取り調査では、発生量はいずれの種類も少ない。(-)
- 2) ホソハリカメムシならびにアカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数は少からやや少であった。(-)
- 3) 今後、出穂が進むと雑草地から水田へ侵入する。(+)

- 4) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 穂揃い、開花の遅れている水田では発生に注意する。
- 2) 防除指針に従い防除する。
- 3) 地域ごとに一斉防除すると防除効果が高い。

4. トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生を確認できない。(-)
- 2) 予察灯への飛来は現在まで少ない。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 本種は東南アジア等から梅雨期に飛来し、秋にかけて世代を繰り返し密度を増加させる(秋ウンカと呼ばれる)。
- 2) 著しく発生量が多くなると9月下旬から10月にかけて坪枯れを起こす。
- 3) 発生を見たら防除指針に従い防除する。

5. セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回による調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 予察灯への飛来は少ない。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

果樹の病害虫

1. 果樹共通 チャバネアオカメムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 予察灯への飛来数はやや多で、フェロモントラップへの飛来は平年並みである。(+)
- 2) 本種の主要な餌であるスギ、ヒノキ科植物の毬果発生量はやや多と予想される。(±)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 園内を見回り早期に飛来状況を把握する。
- 2) 果樹園付近のキリなどの実に飛来してくる成虫の観察を行って、今後の発生量に注意する。
- 3) 袋がけなどで果実への加害を予防する。
- 4) 飛来数が多い場合は防除指針に従い防除する。

茶樹の病害虫

1. 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

2. カンザワハダニ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では8月の寄生葉率は0%で平年の6.2%よりも少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生の多い園では防除指針に従い防除する。

野菜の病害虫

1. コマツナおよびカブの炭疽病(露地)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は平年並である。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 雨よけは本病の防除に有効である。

2. アブラナ科野菜類のコナガ

予報内容

発生量 やや少~並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、定植後のキャベツやブロッコリーでの発生は各地とも少ない。(-)
- 2) フェロモントラップおよび予察灯調査では誘殺数は少ない。(-)
- 3) 今後、増加期に当たる。(+)
- 4) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参照して作物ごとに防除する。

3. アブラナ科野菜類のハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、アブラナ科作物での発生は一部地域で認められる。(±)
- 2) フェロモントラップによる調査では、誘殺は認められていない。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 作物ごとに防除指針に従い防除する。また防除指針のハイマダラノメイガの項を参照する。
- 2) 播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

4. アブラナ科野菜類のキスジノミハムシ

予報内容

発生量 並～やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査ではアブラナ科作物での発生はやや少ない。(-)
- 2) 予察灯への誘殺数は平年並みである。(±)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 作物ごとに防除指針に従い防除する。
- 2) 播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

5. トマトの黄化葉巻病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生がやや多い。(±～+)
- 2) 0.4mm 目合いの防虫ネットや UV カットフィルムの展張など、媒介虫(タバココナジラミ)の防除対策がまだ十分に取られていない施設が多い。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 0.4mm の目合いの防虫ネットや UV カットフィルムの展張など、媒介虫の物理的防除に努める。
- 2) 都内ではタバココナジラミのうちバイオタイプ Q が占めているため、タイプ Q に有効な薬剤を選択し、適正に使用する。
- 3) 発病株は発見次第、直ちに抜き取って処分する。

6. ナスのうどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

7. ナスのハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想され

る。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

8. ナスのチャノホコリダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では、発生はやや少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

9. キュウリのモザイク病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生はやや多い。(±~+)

2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い初期防除に努める。

10. キュウリのうどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い初期防除に努める。

11. キュウリのべと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生は平年並みであった。(±)

2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い初期防除に努める。

12. ネギのさび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

1.3. 野菜共通 ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地の圃場で少ない。(-)
- 2) フェロモントラップ調査では、誘殺数は平年よりやや少ない。(±)
- 3) 年間の発生消長から見ると今後増加期に当たる。(+)
- 4) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参考にして作物ごとに防除する。
- 2) 本種は突然多発することがあるので、今後、葉裏への産卵に注意する。

1.4. 野菜共通 カブラヤガ(ネキリムシ)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) フェロモントラップ調査では、誘殺数はやや少ない。(±)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 定植苗に被害が出たら周辺を掘り起こして捕殺する。
- 2) 防除指針を参考にして作物ごとに防除する。

1.5. 野菜共通 オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査によると各地ともトマト果実の寄生株率は3%で平年の16%よりもやや低い。(±)
- 2) フェロモントラップ調査では誘殺数は平年よりやや少ない。(-)
- 3) 今後、増加期に当たる。(+)
- 4) 気象予報によれば気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 果菜類の幼果や花き類の蕾を好むので排泄糞に注意、被害果や花蕾を放置せず、速やかに処分する。
- 2) キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、インゲン、ピーマンなどのほか、バラ、キク、カーネーションなども加害する。
- 3) 作物ごとに防除指針を参考にして防除する。

.キクの病害虫

1. アブラムシ類(ワタアブラムシ・キクヒメヒゲナガアブラムシ)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 予察圃場および巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)

2) 年間の発生活長から見ると今後増加期に当たる。(+)

3) 気象予報によれば気温は平年並か低く, 降水量は平年並か少ないと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従って薬剤を散布する。

東京都病害虫防除指針：最新版をご覧ください

防除指針オンライン版でも平成 2 1 年度版を公開中です

(防除指針正誤表などの最新の情報をホームページ等でご確認下さい) 現在準備中

テレフォンサービス
0 4 2 (5 2 5) 8 4 0 7

インターネット上の防除所ホームページ

<http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>

病害虫の発生予報，発生状況，防除方法
などをお知らせしています。
最新の東京都病害虫防除指針もオンラインでご覧いただけます